

板紙製通い箱イースターバック、中国で100%自社生産 現地での梱包・物流サービスで初年度5億円見込む

スターウェイ㈱

圧縮板紙素材の繰り返し使える通い箱「イースターバック」を核にした梱包・物流サービスを提供しているスターウェイ㈱（竹本直文社長、東京都港区浜松町1-18-13、TEL.03-5408-1311、<http://www.starway.co.jp/>）は、2008年7月に中国山東省榮成市石島工業団地に設立した現地法人、榮成斯達威包装制品有限公司での100%自社生産を行っている。生産能力は月産8万個。2011年からは中国国内でもイースターバックのサービスを開始。日系企業の中国進出を支援するインキュベーション事業にも取り組んでいる。

（藤本 大規）



特殊ウレタンフィルムはペン先で突き刺しても破れない

☆ウレタンフィルムで宙吊りして緩衝

イースターバックは、繰り返しの使用に耐える高強度圧縮板紙を使用した通い箱。収縮率600%の特殊ウレタンフィルムを梱包物の上下に張って挟み込み、宙吊りにすることで外部からの衝撃や振動を防ぐフィルム緩衝材付きタイプなど、現場ニーズにマッチした機能性も提供し、特にパソコン、プリンタなどの精密機器・部品の輸送箱で採用実績を積み上げてきた。

竹本社長の起業のきっかけは、以前



石島工業団地の誘致委員長も務めている竹本直文社長

に勤めていた半導体メーカーで、取引先への納入時にICを載せるプラスチックトレイが大量に廃棄されるのを目の当たりにした。スターウェイは、この廃棄ICトレイを買い取って検品し、半導体メーカーに新品の半値で販売するビジネスからスタートした。こうした梱包資材の有効活用という目的のもとにイースターバックは開発され、以後同社のコアビジネスに成長。2000年から特許出願していたウレタンフィルム緩衝材タイプのイースターバックは、今年4月に特許認定された。

☆「古紙偽装」のピンチをチャンスに

日本で生産していたイースターバックを、100%中国生産に切り替えた引き金となったのは、2008年1月頃から明るみに出た「古紙偽装」問題。製紙メーカーが古紙配合率を実際より高く表示していたこの問題は、「古紙配合率が高いほど環境に良い」という誤った認識で過度に再生紙を求めた消費者サイドにも責任があり、一概に製紙メーカーだけを責めることはできない。し

かし、古紙配合素材使用をセールスポイントの1つにしていたイースターバックも影響を受け、売上を減らした。中国進出自体は、コストダウンを目的として古紙偽装問題発覚以前から準備を進めていたので、このピンチをチャンスに変え、迅速に中国自社生産を始めることができた。現在のイースターバックでは、古紙配合の有無について言及はしていない。

日本で生産していた際には、板紙素材に北越紀州製紙㈱の「パスコ」を使用していたが、現在はすべて中国で現地調達。緩衝材の特殊ウレタンフィルムは日本バルカー工業㈱製。こちらは現在も日本で調達し、中国へ送っている。

2011年からは、中国国内でもイースターバックのサービスを開始した。上海、北京、深圳などの大都市や、工場のある山東省の都市部において、食

品、衣料品、自動車部品、医療、ネット通販などの業界で引き合いがあり今年約5億円の売上を見込んでいる。

こうした中国でのビジネス経験を生かし、今秋には日系企業の中国進出支援事業として、中国法人の第二工場内にインキュベーションセンターを開設する。同法人のある石島工業団地への進出を考えている企業に対し、進出の意思決定をするまで、あるいは事業が軌道に乗るまでの間、簡易事務所機能を提供し、通訳、政府との調整、資料作成代行、コンサルなどのサービスを行うもので、1ブース24~30㎡で月額10万円から。2013年3月期に同事業で3,000万円の売上を目指している。

日本にも近い榮成市石島工業団地

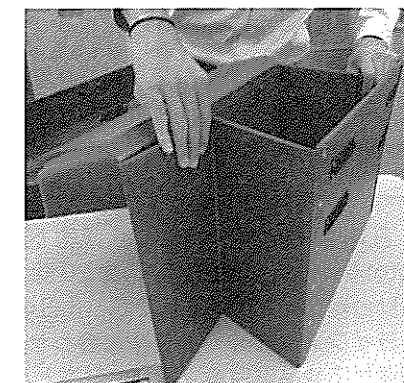


三つ折りタイプに葉書くず使用の緩衝材も

◆折り畳み（三つ折り）可能なタイプがイースターバックの一番人気。通い箱導入の際に最も問題となる空箱回収を効率化。箱の中に箱が収納できるので、例えば10梱包で送った製品の空箱を1梱包で行うことができる。ウレタンフィルムなどの緩衝材を付けることも可能。

◆新たな緩衝材も登場している。郵便葉書の印刷を主力事業とするトキワ印刷と共同開発した「ワンダーエコ」は、葉書の製造工程で発生する裁断くず等の上質古紙を発泡させた緩衝材。トキワ印刷がペレットを供給し、スターウェイの中国工場が発泡を行う計画がある。

◆要望のあった顧客に対して、1個分を作るために排出されるCO2量をオフセットした、カーボンオフセット付きイースターバックも提供可能。スターウェイでは、日本カーボンオ



三つ折りタイプのイースターバック

フセット (<http://www.co-j.jp/>) からCER[®]を10トン分購入しており、その中から割り当てている。

※CER (Certified Emission Reductions、認証排出削減量)：京都議定書で規定された途上国への地球温暖化対策のための技術・資金援助スキームであるクリーン開発メカニズム (CDM) のルールに則って行われた温室効果ガス排出削減量に対して発行される国連認証のクレジット。